

## 北条記(小田原記)

作者: 不詳

成立: 戦国末期以降



## 解題

## Keyword

- 小田原北条氏
- 軍記物語
- 私軍記
- 「永享記」
- 「異本小田原記」
- 「相州兵乱記」
- 「小田原軍記」
- 横井宗可
- 「東乱記」

小田原北条氏の台頭から滅亡に至る五代の歴史、すなわち鎌倉幕府滅亡(1333)頃から天正8年(1590)までを、東国の隣接諸大名との関係を中心に記述した軍記物語。

なお、類似書名に『小田原北条記』があるが、これは江戸期に江西逸志子が著したもので、別書である。

## ■ 成立経緯

後期軍記(室町・戦国軍記)は、先行軍記と関連しながら派生的に編纂される傾向が強い。本書もその特徴を示し、冒頭部分が『永享記』(#6)とほぼ同一であることから、永享の乱関係諸軍記一つと捉えられる。

本書は異本が多く、五巻本、六巻本、十巻本の3系統がある。各系統の成立経緯については研究が進んでおらず、梶原正昭の未完の論文「戦国軍記の展望(初稿)」での言及がほぼ唯一のものようである。これによれば、3系統のうち中核と推定されるのが六巻本で、『続群書類従』に収載される。関東公方家の由来から筆を起こし、巻末には北条五代の年譜・系図が記される。このうち「太田道灌最後の事」までを含む第1巻を取り除き、再編成したのが十巻本である。この末尾にも、年譜・系図が含まれる。これに「伊勢平氏由来之事」を加え、全体を北条氏の物語として体裁を整えたのが五巻本である。五巻本は年譜・系図を欠く。また、五巻本と同系統と考えられるのが『異本小田原記』である。このほか永享の乱関係軍記として『相州兵乱記』(#8)『小田原軍記』があるが、これらは十巻本と同系統とされる。このうち『小田原軍記』は、北条家家臣横井神助の子孫、横井宗可入道が祖先の自記に基づいて重撰したとされる

## #7 北条記(小田原記)

が、先行の十卷本と同内容である。

本書の著者、成立年は不詳だが、松平文庫(島原図書館)所蔵の五卷本には文禄2年(1593)成立との奥書があるという(『国書総目録』)。

### ■ 内 容

北条氏が勃興する前提として、鎌倉幕府滅亡から書き起こし、混迷を深める関東の争乱の中から北条氏が関東全域に権力を確立していく過程が記される。北条氏を中心に諸戦国大名との関連が描かれるため、北条氏の事蹟をみるだけでなく、関東全域の戦記物語として捉えられる。ただし、筆者の立場が不明であり、また潤色もあると考えられることから、「相州古文書」等、他の史料による検証が必要な場合もある。

### ■ 諸 本

国立国会図書館では、『小田原記』の書名で十卷本1本のほか『異本相州兵乱記』とされる2本(内1本は青山文庫)を所蔵している。

国立公文書館内閣文庫では、本書および同系統とされる伝本を多数所蔵しており、次のように整理できる。

『北条記』:昌平坂学問所旧蔵2本(6巻・4巻 6巻は異本相州兵乱記)、和学講談所旧蔵1本(5巻 内題『東乱記』)、内務省旧蔵1本(4巻)

『小田原記』:昌平坂学問所旧蔵1本(10巻 異本相州兵乱記)、大学頭林家旧蔵1本(5巻)、内務省旧蔵1点(5巻)

その他、十卷本系統の『小田原軍記』の書名で内務省旧蔵本1本がある。

これ以外にも、多数の機関で『北条記』『小田原記』『小田原軍記』『東乱記』『相州兵乱記』『関東兵乱記』の書名で伝本が確認されている。ただし”安永2年福島兼定写”(栗田文庫所蔵)とされる伝本(『北条記』)は、別の史料という指摘がある(『房総叢書』)。



### 史料本文を読む

#### <翻刻本>

- ◆ 「北条記 一名小田原記」(『続群書類従』第21輯上 合戦部巻609 [081/2/21-1])
- ◆ 「北条記」(『北条史料集』萩原龍夫校注 人物往来社 1966 (第二期 戦国史料叢書1) [K24. 7/17]) ※底本:内閣文庫和学講談所旧蔵本
- ◆ 「異本小田原記」(『国史叢書』黒川真道編 国史研究会 1914 [K24. 7/64])



### 史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆ 梶原正昭「永享の乱とその関係軍記」(『室町軍記総覧』古典遺産の会編 明治書院 1985 [913. 43/10])
- 『室町・戦国軍記の展望』梶原正昭著 和泉書院 1999 [913. 43JJ/128]